

時間調査 用紙日時		部	人	用具	記事	クマゾミ								
						材質	車ノ底 立方(分)	車ニカ キ同数	セノ板 立方(分)	銅板ノ 費同数	銅板ノ 費同数	9分ノ 同(分)	12分ノ 同(分)	記事
3-10-03	建設	甲山	田中三郎 佐々木 久保清司 大塚幸 次郎	手車 金平 フラス	粘土			13.5		4	1.943	0.154		
		乙山	田中		砂			13.2		4	1.240	0.094		

デカゲル			満車デハコブ			アケル		
観測 度数	1車ヲ 降リ時 (分)	1立方 メー ター時 間(分)	観測 度数	乗換 ポイント	運搬時間 (分)	1立方 メートル 降リ時 間(分)	1立方 メートル 降リ時 間(分)	記事
4	0.182		4	50	0.205	0.450		平地

圖-1 建設の動態分析

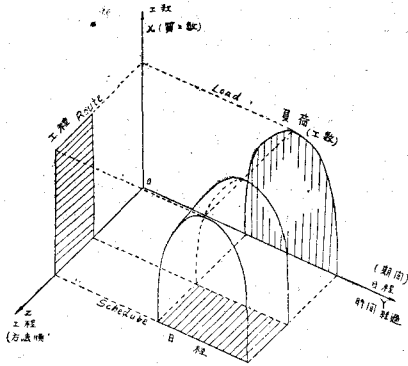


表-3 時間研究總括表(2)

観測 度数	空車デブリ		空車デブリ		記事	空車デブリ		観測 度数	記事
	車輪距離 (分)	1車100 フット 時間(分)	1車100 フット 時間(分)	1車100 フット 時間(分)		車輪距離 (分)	1車100 フット 時間(分)		
4	50	0.260	0.520		平地	4	0.162		4

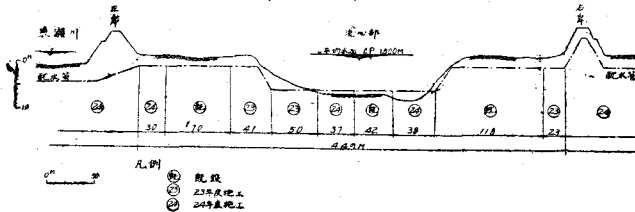
建設		全作業				記事
1車ノ観測 時間(分)	1車100 フットノ観測 時間(分)	往復 度数	距離 (片道) フット	往復全部 ノ観測時間 (分)	車100 フットノ観測 時間(分)	
2.94		43	50	1.22	2.84	27

(92) 新荒川配水本管伏越工事概要 (15分)

特にシートパイル工について

間組 武田 四郎

本工事は東京都の人口が昭和 30 年度に於て 600 万人を突破する状態にあるので、現在の給水量を増加する為

圖-1
新荒川

の水道応急拡張計画の一部をなしてゐるものである(土木ニュース第29号参照)。

この応急拡張計画は江戸川を水源とする

金町系の拡張で金町浄水場の拡張と並行

して、新荒川(荒川放水路)に内径 1 500

mm の配水本管を伏越する工事である。

本計画に依る増加給水量は 136 000 トン

で現在金町系の送水量の 51%、全都給

水能力の12%を増加する事になる。本工事は圖-1の如く
延長約 449m で、その内訳は表-1の通りである。

表-1

	既設 (終戦前)	23年度 施工	24年度 施工	合計
低水敷	43	50	75	167
高水敷	188	64	30	282

表-2

	スチーム ハンマー式	ドロップ ハンマー式
1日当打枚数	5.6枚	7.4枚
1枚当歩掛	2.1人	1.0人
1枚当船賃借料	710円	440円
1枚当諸経費 (修理費動力料等)	1 295円	650円
1枚当総経費	3 160円	1 664円

現在は左岸低水敷約 32 mと流心部 38 mを施工中である。
新荒川の河底は腐蝕粘土で土質悪く、且つ水深は流心
部に於て平均水面下約 9.5m あり、旧工事は締切工が崩壊
した爲に工事中止となつた。それ故今回は施工の安全を期
する爲に、従来の日鉄のⅢ型Ⅳ型を使用したシートパイル
締切工をラルゼンⅣ型に換え、長さも従来の 15 mを 20m

圖-2

